

小説『泥流地帯』『続泥流地帯』

# 映画化プロジェクト

連携  
事業

かみふしの × 三浦綾子記念文学館

# ニユース

第4号  
2018.10

内閣府「第45回地域再生計画」認定

発行・「泥流地帯」映画化を進める会事務局（北海道上富良野町 企画商工観光課 企画政策班 電話 0167-45-6994）

三浦作品のファンらを前に朗読劇を披露した生徒たち



## 「泥流地帯」朗読劇 旭川でも

### 上富良野高生5人熱演

「いいこと、ありますように」

上富良野高の2、3年生5人が20日、旭川市の三浦綾子記念文学館で、三浦さんの小説「泥流地帯」を基にした朗読劇「いいこと、ありますように」を上演した。町外では初めての披露に約40人が訪れ、生徒たちの姿を真剣に見つめた。

小説は1926年（大正15年）の十勝岳噴火による「大正泥流」に見舞われた上富良野が舞台。劇は、1人の教諭と4人の生徒が小説に登場する若者4人の言葉や心情をたどり、三浦さんが作品に込めた思いを讀

み解く内容となっている。5人は登場人物になりきってせりふを読み上げ、目を拭う来場者の姿も。砂川市から訪れた前谷篤さん（64）は「小説の芯を若い感性で表現していて、感動した」と話していた。

生徒役の榎倉蒼一郎さん（3年）は「三浦さんのファンを前に披露するのは緊張したけど、やりきれてすがすがしい」と語った。朗読劇は11月3日に町内で開かれる町総合文化祭でも上演される。

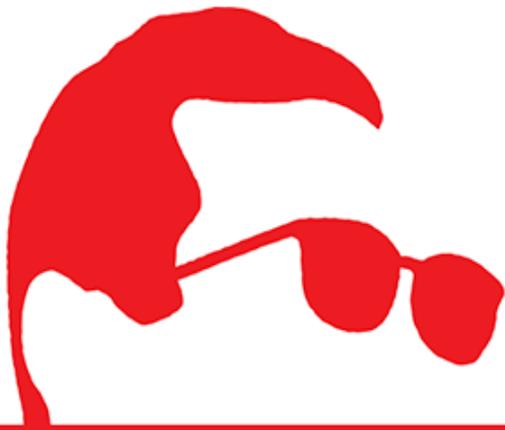
（古市優伍）

# いいこと、ありますように

三浦綾子の小説『泥流地帯』『続泥流地帯』の映画化推進に向けて、「映画化応援隊」として活動する上富良野高の生徒6名が町内の機運醸成活動として朗読劇「いいこと、ありますように」を上演しています。この取り組みを、原作を所管する三浦綾子記念文学館でもぜひ紹介したい、そして朗読劇を上演してほしいという熱いリクエストが寄せられ、10月20日（土）午後2時から、三浦綾子記念文学館（旭川市神楽7条8丁目）にて開催されました。

「『いいこと、ありますように』  
に』あらずに」

教師生活を始めて数年のユカリは、地元の高校に赴任したのをきっかけに、自分なりの総合学習に取り組みようとしていた。地域の歴史をどうするか、そこに住む人の姿にどう接するかを考えていたとき、友人の紹介で小説『泥流地帯』と『続泥流地帯』を知る。この町が舞台となった物語であることを知ったユカリは、生徒たちとこの本を讀んでみようと思いつく。早速、ソウタ、リョウイチ、カナ、ハジメの4人を集め、読んでもらうことにした。彼らのディスカッションは、ユカリの想像を超えて楽しく豊かなものとなり、ふるさとを捉え直す機会となっていく。



# ブラタモリ

BURATAMORI

2018年11月17日(土)

午後7時30分～8時15分

## 『富良野・美瑛』～残りモノには福がある!?!?～

北海道の大人気観光スポットといえば、やっぱり「富良野・美瑛」。  
ラベンダー畑、幾重にも連なる丘、そしてジャガイモ?などなど  
「これぞ北海道!」という、見どころ満載の場所だ。

でも…この場所の開拓が始まったのは、明治も30年たってから。  
北海道の真ん中であって、どこから行くにも「遠く」しかも「未知」。  
そのため手付かずのまま残った“最後のフロンティア”だったのだ。  
いわば「残りモノ」だった土地が、なぜ人を招く「福」に変わったのか?  
ブラブラ歩いて解き明かしまーす。

ここが見どころ リアル泥流地帯「**かみふらの**」

## 禍転じて「福」とする!?

交通手段がなかったことから、開拓されずに残ってしまった「上富良野」。  
明治30年、鉄道の敷設が決定し、いよいよ開拓開始になると、  
「地味すごぶる豊沃の地」と大人気に。  
ところが!開拓30年たったある日、十勝岳の噴火で田畑は壊滅…。  
土地を捨て他所に移る人が多い中、この地に残り復興した人たちには  
思わぬ拾いものがあった!

## ●●● 近日の催し物 ●●●

**11月3日(土)** 社会教育総合センターにて(無料) 午前10時30～・午後4時～

泥流地帯「応援隊」朗読劇 ～いいこと、ありますように～  
上高生6名による朗読劇(約45分)が開催されます。